

るときに、論文賞は地質学雑誌に、Island Arc賞はIsland Arcに対象を限定した方が良いという意見があったが、結果としては、両方を対象とすることになった経緯があるとの発言があった。

選考委員会としては、この件についての問題点を整理して、次期の委員会に申し送りするが、今後、理事会での議論が必要となる事案かもしれないとのことであった。

以上、今回推薦された各賞の候補者については、全会一致で異議なく承認された。

2. 名誉会員推薦委員会報告 (山本副会長)

推薦委員会から、候補者として1名の推薦があり、審議の結果、熊井久雄会員を名誉会員候補者として、総会に推挙することを、全会一致で承認した。

ただし、推薦文の文章にやや難があるので改善の要請があり、委員会が修正することとした。

また、委員長から、推薦人(理事、専門部会)からの名誉会員の推薦が少ないとの報告があった。かつては名誉会員が会員に占める割合が大きかったので、候補者を絞った経緯がある。推薦を多くするためには制度の再検討などが必要かもしれないなど、今後の推薦については、次期執行理事会に申し送ることが報告された。なお、日本の地球科学関係の学会では、名誉会員の割合が地質学会は若干多いとの発言もあった。

3. 編集規則改正について—法務委員会の答申を受けて (山路理事)

下記のことを背景に法務委員会からの答申を受けて、編集委員会から規則の改正案が提案された。

・文科省からの要請を受けた学術振興会からの要請により、オーサーシップと二重投稿に関する定義とそれらが順守されない場合の対応の明確化の指示

・博士学位論文の公開と著作権—地質学雑誌におけるプライオリティ

改正案の文言がわかりにくいという意見が出されたが、国際基準および学術振興会の指示に則ったものであることが執行理事会側から説明された。また、学会発表(講演要旨)の引用、講演要旨と論文の差異の明示などについて質疑応答があり、今後、会員の理解のために解説などをつけてわかりやすくする必要があったとした。以上審議のうえ、全会一致で改正案は承認された。

4. 2016年度事業計画案について

資料にそって会長から解説があり、地学オリンピックに関する文章を加筆(久田理事)、初等中等教育における地学教育の充実に関する文章を加筆することなどが要請された。それらの修正を含めて、全会一致で異議なく承認された

5. 2016年度予算案について (緒方理事)

会員数の漸減により2016年度の会費収入が前年度より100万円ぐらい減少、収支ともに縮小予算となっている、引当金の取り崩しや、年会の収支などについても説明があり、原案は全会一致で異議なく承認された。

6. 総会議案について

第5号議案として名誉会員の承認を追加することを含め、全会一致で異議なく承認された。

7. その他

1) 地質学雑誌のあり方を考えるタスクフォース委員会の設置について(井龍会長)

今後、1年間ぐらいの予定で地質学雑誌の在り方を検討するためのタスクフォース委員会を設置する件について井龍会長から説明があった。

委員5名: 斉藤常務理事、中澤、小宮、藤野、大藤

紙媒体がなくなることによる会員減少の誘発、研究中心ではない会員に対する対策、また、委員会のメンバーに年配会員を追加してはどうかなどの意見が出された。委員会の設置については全会一致で承認された。

2) 「県の石」出版に向けてのプロジェクトチームの設置について(井龍会長)

井龍会長より、県の石の出版については、プロジェクトチームを設置して検討準備することが説明された。出版の際は候補にもれたものも含めることを検討する予定。

125周年の記念事業に間に合うように出版することを検討する。

プロジェクトチーム4名: 井龍、辻森、重田、門馬(鉱物担当、非会員)

原稿のひな形を用意し統一のとれたものとする。支部に原稿・資料を依頼することになるが、進行に差はあっても、できたところから進め、できるだけ短時間に成し遂げるようにする。

以上について、提案は全会一致で承認された。

3) 「北海道地質百選(仮称)」の出版について(保柳理事)

報告事項2-4)にあるように、下記のように出版が進んでいる。出版物としては地質学会の支部が出すものなので、学会としてはこれを承認する必要がある。

・北海道支部監修(石井正之ほか)
・著作権: 北海道支部
・著作権料: 学会の慣例にしたがい、北海道支部と著者として折半、支部はその収入を活動費とする。以上、保柳理事の説明を受け、出版企画・監修は全会一致で承認された。

4) 海洋底調査の出版(保柳理事)

本件は2006年の企画当初に出版は承認されているが、すでに相当年月を経ており、学会の組織も変わっていることから、改め

て、現理事会として出版企画・監修の承認が必要であるとの説明があった。安間理事より回覧された原稿についてはほぼまとまっているが、経年による用語の不統一等について意見が出された。学会の企画・監修による出版物として刊行することについての採決は、賛成29、保留6となり、賛成多数で承認されたが、内容のチェック体制、現状での出版計画の詳細、出版社との契約関係については、再確認することとした。

以上

2016年4月25日
一般社団法人日本地質学会
理事会議長 小嶋 智
副議長 向山 栄
代表理事: 会長 井龍康文
(以下、役員氏名略)

2015年度 第7回執行理事会議事録

期 日: 2016年1月23日(土) 13:30~17:30
場 所: 地質学会事務局
出席者: 井龍会長 山本副会長 渡部副会長
齋藤常務理事 ウォリス 海野 緒方
坂口 杉田 竹内 保柳 松田 山路
(事務局) 橋辺
欠席者(委任状提出あり): 中澤 平田 星
廣木
*定足数(12, 委任状含む)に対し、出席者
12名、委任状5名、合計17名の出席。

I 審議事項

1. 地質地盤情報に関する研究体制について(渡部)

「地質・地盤情報活用利用促進に関する法整備推進協議会」が新体制の「地質地盤情報利活用活性化研究会」に移行され、業界の技術的な標準化は進められる。地質学会は、学術会議の提言を受けた、学術発展のために地質・地盤情報の保存・共有・活用の法整備を目指した活動を進める。

2. 県の石の選定について(井龍)

鉱物の一部を除き決定した。メールでの継続審議とした。

3. 北海道支部「北海道地質百選(仮題)」の出版企画申請について(保柳)

出版を了承し(最終承認は理事会)、印税については本部出版物に倣い、支部と著者とで分けることを提案することとした。

4. その他

1) 今年度のセンター試験の地学について情報を共有した。

2) 東京大会の委託業者の候補について行事委員長から説明があり、さらに不明の点を確認するなどして、メールでの継続審議とした。

II 報告事項

1. 全体的報告

- 1) 12月28日届けで啓林館、数研出版の高校教科書「地学」に対する意見書を送付し、文部省に報告した。
- 2) 資源エネルギー庁…地層処分技術WGによる中間整理の説明会が1/23に開催され、関連9専門部会からおよび理事らが出席した。29日までに地質学会の意見をとりまとめて提出予定。また、同庁の専門家の意見募集も開始された。
- 3) 2016年度役員選挙については、代議員は全国区、地方区とも定数内で無投票当選、会長、副会長の意向投票のみ実施し、1/13開票。現在は理事立候補を受付中。

2. 運営財政部会：総務委員会（緒方）

<共催・後援依頼，他団体の募集等>

- 1) 産総研地質標本館より，地質学会のフォトコン展示会開催（4/19-5/22）についての共催依頼，また，同所において学会の表彰式も実施予定 ← 共催承諾，広報と審査委員会で表彰式・講演会の日程を早急に決める。
 - 2) 日本学術会議主催による福島原発事故関連の公開シンポジウム開催について，原子力学会より趣旨説明と共催協力の説明会開催（1/13），緒方理事が出席し，その報告があった。
 - 3) 地理学連携機構より，合同総会の通知（3/20）。地質学会はオブザーバー参加となるので，3/1までに欠出を要検討。
 - 4) 第15回国際放射線研究集会（15th InterRad）（委員長松岡篤，2017/10/23-27）の共催を承諾。
 - 5) 3th International Geoscience Symposium “Precambrian World 2 : Earth through History”（2017/3/3-9，代表清川昌一）の名義共催を承諾。
 - 6) JAMSTEC海洋掘削科学研究開発センター（ODS）より，科学掘削シンポジウム&スクール in 台湾（2016/02/01-04）の共催依頼を承諾。
 - 7) 「平成27年度消防防災科学技術研究推進制度」研究課題の公募（12/6-3/6）
 - 8) 第12回日本学術振興会賞受賞者（25名）の選出報告
 - 9) 第16回子供のためのジオカーニバル（後援）終了報告
- <会員>
- 1) 今月の入会者（4名…正：2，院割：1，学部割：1）
2015年度から入会希望
正（学部割）会員〔1名〕：古橋拓哉
2016年度から入会希望
正会員〔2名〕：永井健一，鈴木 至
正（院割）会員〔1名〕：堀田千二海
 - 2) 今月の退会者（2名）
正会員〔2名〕 黒澤一男，中村典之
 - 3) 今月の逝去者（1名）
押手 敬（2015年1月19日 逝去）

4) 2015年12月末日会員数

賛助：28，名誉：58，正会員：3793，正会員：3582 正（院割）会員：193
正（学部割）会員：18 合計 3879（昨年比 -40）

5) 会員名簿2015年度版が間もなく発行される。

<会計>

3. 広報部会：広報委員会（坂口・松田）

4. 学術研究部会（ウォリス・竹内・中澤）

(1) 行事委員会（竹内）

1) 総会スケジュールと講演会については下記のとおり。フォトコン表彰式は時間的制約があるので，今総会では別イベントにする。

会場：北とびあ第2研修室

日時：2016年5月21日（土）

10:00-10:40 執行理事会，11:00-13:00 講演会，14:15-15:15 総会，15:30-17:00 理事会

講演会：日本の地質学：最近の発見と応用2016（Recent progress in geological science in Japan, 2016

池原 研（産総研）：地震・津波と深海堆積物の関係（タービダイト古地震学）

宮川歩夢・大坪 誠（産総研）：slip tendencyを用いた活断層活動度の評価

吉田英一（名古屋大学）：ノジュールの成因に関する研究

兵頭政幸（神戸大学）：地磁気と気候変動の関連性に関する研究

2) 「石油・石炭地質学と有機地球化学」セッション世話人 金子信行氏からの東京・桜上水大会への要望があり，行事委員会で検討して回答した。

各セッション開催日は，各世話人の意見を聞き，なるべく叶うように決める。参加費の割引等については現状では難しい，プログラムは確定次第早急に公表する，など参加者増のための配慮を行う。

3) 優秀ポスター賞のエントリー制の手順・講演登録時に優秀ポスター賞審査を希望する旨の選択をする。

・エントリー者リストをもとに，前日に，ポスター掲示場所を示す番号のそばに「エントリー講演」という紙を貼り付ける（大会運営者側）。

・前日あるいは当日，「エントリー講演」と書かれた紙の貼付場所が妥当かを，各賞選考委員長またはその日の審査委員の代表者がチェックする。

・審査委員は，あらかじめ用意されたエントリー講演リストをもとに審査をする。

・各日の授賞数は，各日のエントリー数に比例して決定する。

4) 東京・桜上水大会のシンポジウムLOCと検討中，国際シンポジウムは井龍

会長が検討する。

5. 編集出版部会（山路・海野・保柳）

(1) 地質学雑誌編集委員会（山路編集委員長）

1) 編集状況報告（1月22日現在）

・2015年投稿論文 総数73編 [総説4（和文2・英文2）・論説40（和文37，英文3）・報告13（和文11，英文2）・ノート2（和文2）・口絵6（和文5・英文1）・巡検案内8]（昨年比+8）

・2016年投稿論文 総数5編 [論説4（和文1）・報告1（和文1）]

読中：32 受理済み：4

・121巻12月号：総説1，論説1，口絵1（計36ページ，12月21日発送済）122巻1月号：論説2，報告1（計42ページ，校了，1月29日発送予定）

(2) アイランドアーク編集委員会（海野）

1) 編集状況

Vol.25 Issue1（2016年1月）：特集号原稿1，一般原稿4編（計82ページ）発行予定

出版予定日を過ぎたが未公開状態。ワイリー制作担当に督促中。

2) オンライン投稿の状況

過去半年（2015.7.1~2016.1.22）の投稿数37件。うち新規投稿33件。

3) その他

・新規特集号の企画提案

「Orogenic processes in island arcs: subduction, accretion, collision and recycling.」（代表世話人：山本啓司（鹿児島大））の企画提案があり，採択した。順次原稿投稿予定。

・新体制の発足

2016年1月より，武藤鉄司（長崎大），田村芳彦（JAMSTEC）新編集委員長のもと新体制が発足した。

・ワイリーグループ内での業務移管（2015年12月4日付書面）

2015年12月31日をもって，Island Arc等の出版事業をWiley Publishing Asia株式会社からグループ内のJohn Wiley & Sons Australia株式会社へ移管する旨の通知があった。ただし，編集作業への実質的な影響などは無いとのこと。

・契約内容の変更

隔月刊に伴う契約内容の変更について，ワイリーより変更案が送付された。委員長陣で内容を確認中。

(3) 企画出版委員会（保柳）

1) 大島三原山探検マップ（小泉治彦ほか編集）投稿されたが，委員会で確認し差し戻し予定。

2) 北海道地質百選（仮題，北海道支部監修）支部による出版申請書が提出。

6. 社会貢献部会（平田・杉田・廣木）

・第14回法整備検討委員会松浦委員より議事録案の提供

7. 地質災害委員会(齋藤)
・防災学術連携体設立総会に出席し、ニュース誌に報告が出る。
8. 125周年記念事業実行委員会(渡部)
・2月に会合開催予定。
9. 法務委員会
・編集出版規則の変更を検討中。

以上

2016年2月20日
一般社団法人日本地質学会執行理事会
会長(代表理事)井龍康文
署名人 執行理事 齋藤 眞

2015年度 第8回執行理事会議事録

期 日：2016年2月20日(土)13:00~17:00
場 所：地質学会事務局

出席者：井龍会長 山本副会長 渡部副会長
齋藤常務理事 ウォリス 海野 緒方
坂口 杉田 中澤 保柳 松田 山路
(事務局)橋辺

欠席者(委任状提出あり)：竹内 平田(井龍) 廣木 星

*定足数(12, 委任状含む)に対し, 出席者13名, 委任状4名, 合計17名の出席。

*前々回・前回議事録が承認された

I 審議事項

1. 法務委員会からの答申を受けた投稿編集出版規則その他の改正について(山路)
法務委員会の答申に基づいて投稿編集出版規則の改正案が示された。小修正のうえ理事会に諮ることとした。他の出版物についても著作権譲渡同意書を検討する。
2. 刊行回数変更(4回→6回)に伴うアイランドアークの契約書更新について(海野)
年間6号出版に伴う新しい契約内容が海野編集長から紹介された。これに伴い年間ページ数は822ページとなる。審議の上契約更新は承認された。
3. フィールドジオロジー(共立出版)の電子書籍化(保柳)
フィールドジオロジー編集委員会が、各著者に対して、電子出版の可否および電子版の少額印税の学会への寄付の許諾を得て進める方針とする。なお紙の出版物は従来通り継続出版される。
4. 次期の日本ジオパーク委員会(JGC)委員の推薦
ジオパーク支援委員会の推薦を受け、審議の結果、平田理事を推薦することとした。
5. 連合ユニオンセッション「連合は環境・災害にどう向き合っていくのか?」の講演者を審議し、栗本史雄会員を推薦することとし、

投稿料は学会が負担することとした。

6. 産総研とのフォトコン展示会共催(承諾済)内容について

展示会は地質標本館と共催により実施、その他、産総研から示された企画内容について検討し、「了承した。白尾審査委員長の謝金について、講演会は産総研が、表彰式はこれまでどおり学会が交通費とともに支払うこととした。

7. 防災国民大会(8月)に関する件(齋藤)
内閣府の防災推進協議会の枠組みの中で防災学術連携体は「防災国民大会(仮称)」を実施する。期日は8月末、会場は東京大学本郷キャンパスで開催。地質学会としては「地質地盤情報のシンポジウム」を開催する方向で準備を進める(担当 中澤理事)。

8. 学術研究船「白鳳丸」のシービーム装備改善について、JAMSTECに要望書を出す件(井龍)

海洋地質部会(芦部会長)からの表記についての現状説明と要望があり、学会として要望書を出すこととした。要望書の具体的内容はメール審議とする。

9. 地質調査研修事業への意見書について(緒方)

調査研修事業への意見書および研修事業の経過と背景について確認し検討した。その結果、意見書提出者と担当者が直接会って詳細を伺うこととした。

11. 県の石の選定後の取扱いについて(井龍)
4月の理事会での決定(事前メール審議も含めて)に向けて、選定委員会および各支部での検討を急ぐ。選定終了後の公表の具体策を検討して準備を進める。

12. 2016年度事業計画について

12月理事会後の修正案について、次回の執行理事会までにメールで意見交換をし、3月の執行理事会で最終案を決定する。

13. その他

東京大会の委託業者の選定は2社からの見積もり(一部再見積もり)を再度検討したが、決定には至らず、最終的には、本日欠席の竹内行事担当理事の意向を確認したうえで決定することとした。

II 報告事項

1. 全体的報告

- 1) 大学評価学位授与機構より、国立大学教育研究評価委員会専門委員として当学会推薦者(平成26年)から2名を選出した旨の連絡があった。ただし、評価結果が出るまでは委員の氏名公表は不可とする。なお、同機構は平成28年4月1日付にて(国立大学財務・経営センターとの法人統合)名称変更し、「独立行政法人大学改革支援・学位授与機構」となる。
- 2) 「…地層処分技術WGにおける中間整理」について、専門部会、理事らの意見・質問をとりまとめ、1/29に資源エネルギー調査会へ提出した。
- 3) 理事選挙の立候補者は2月8日に締め切

られた。全国区は定員未満(39名)及び地方区(各1)のうち中部支部を除き立候補者が定員内であった。中部支部は2名の立候補者で選挙を実施中。これによって、新年度の理事は全国区地方区合わせて46名(定数50名)になる。

4) 県の石の最終案についてメール審議の結果、全理事の承認を得た。

2. 運営財政部会：総務委員会(緒方)
<共催・後援依頼, 他団体の募集等>

- 1) 「第1回台日地質学会総合学術検討会」(世話人：林殿順, 保柳康一)の共催依頼を承諾。
- 2) 第60回粘土科学討論会(9/15-17, 九州大学)の共催依頼を承諾。
- 3) 四国支部が共催する、愛媛大学ミュージアム企画展「四国の鉱物展」(3/2-4/27)への後援依頼を承諾。
- 4) 日本学術会議 主催による「原子力総合シンポジウム2016-福島第一原発から5年」の共催依頼を承諾。
- 5) 学術会議公開講演会「強靱で安心・安全な都市を支える地質地盤の情報整備」(1/23)の実施報告があった。講演7件, 参加者148名
- 6) 日本学術振興会賞の公募(受付期間4/11-13, 学会締め切り3/31), 応募資格4/1現在45歳未満, 博士号取得, 日本国籍あるいは日本で5年以上の研究歴→HP, News誌, geo-flashに掲載
- 7) 地理学連携機構より, 合同総会の通知(3/20)。地質学会はオブザーバー参加
- 8) エチオピア名誉領事館(名古屋)よりアジスアババ科学技術大学の学部長職ならびに教授職(土木工学, 鉱山工学その他, 締め切り5/20)の募集依頼→geo-flashに掲載
- 9) 東レ科学振興会
・2015年度受賞者および授与式の案内(3/15), 会員が理科教育賞を受賞しているので, geo-flashで周知する。
・東レ科学技術賞および科学技術研究助成の候補者推薦募集, 推薦メッ10/7, 1学会2件以内
- 10) 海上保安庁より「平成27年度, 海洋情報部研究成果発表会」(3/7)開催通知→geo-flashに掲載。

<会員>

- 1) 今月の入会者
2016年度から入会希望(4名)
正会員〔4名〕：木下正高, 児玉真一, ピトン マリ, 内藤好裕
- 2) 今月の退会者(2名)
正会員〔2名〕伊藤麻佑子, 廣瀬祐樹
- 3) 今月の逝去者(1名)
渡邊 健(2016/01/28)
- 4) 2015年12月末日会員数
賛助：28, 名誉：58, 正会員：3793, 正会員：3581 正(院割)会員：193

正(学部割)会員:19 合計 3879(昨年比-35)

<会計>

- 1) 東京大会の委託業者再見積もりについて再審議。
- 2) 各部会での来年度の予算案として、2016年度特に計上すべきものがあれば早急に出してもらいたい。これに対し斎藤常務より、地質災害委員会に対し初動調査費の計上が要求された。このほかにあれば、3月初旬ころまでに提案願いたい。
- 3) 広報部会: 広報委員会(坂口・松田)
 - ・フォトコン縮切(2/22)3月審査。
 - ・フォトコン展示会について産総研から企画内容が提示された。
- 4) 学術研究部会(ウォリス・竹内・中澤)
 - (1) 行事委員会(竹内)
 - 1) 桜上水大会関係行事
日大自然科学研究所との共催のシンポジウムへの100万円の助成が採択された。また、巡検や普及行事について検討内容が報告された。
 - 2) 国際交流委員会(ウォリス)
 - ・台湾地球科学総合学術検討会 Taiwan Geoscience Assembly (TGA) (1/3年に開催, 5/16-20) で Joint Symposium of Taiwan and Japan Geological Societies (5/17か18) を開く件について、保柳理事にTGA大会委員長の馬國鳳(Kou-Fong Ma)教授(国立中央大学)より、「第1回台日地質学会総合学術検討会」のコンピナーの委嘱があった。
 - また、上記会に日本から3名を招待する旨の連絡があった。
 - (3) JIS, 標準担当(中澤)
 - (4) その他
- 5) 編集出版部会(山路・海野・保柳)
 - (1) 地質学雑誌編集委員会(山路編集委員長)
 - 1) 編集状況報告(2月10日現在)
 - ・2016年投稿論文 総数15編 [論説7(和文7), 報告2(和文2), 講座4(和文4), 口絵1(和文1), 巡検案内書1](昨年比+1)]
 - ・査読中:38 受理済み:2
 - ・122巻2月号:論説2, ノート1, 報告1(計42ページ, 2/19校了予定。2/29発送予定)
 - 2) 121巻9月号掲載の斎藤ほか論文(p.339-346) Fig.2について:編集最終段階において、図の差し替え不備があり、2月号に訂正記事を掲載する。
 - 3) 投稿編集出版規則の改正について法務委員会から返答があった
 - (2) アイランドアーク編集委員会(海野)
 - 1) 編集状況
Vol.25 Issue 2 (2016年3月):一般原稿5編(計82ページ)で入稿・校正中。3月4日公開予定。ただし一部校正が上

- がっていない原稿がある。遅延の原因としては、Vol.25から開始した日本語抄録掲載のため、一部版の組み直しが生じたためとのこと。至急作業をすすめるようWileyに督促中。
- 2) オンライン投稿の状況
過去半年(2015.8.1~2016.2.15)の投稿数41件。うち新規投稿36件。
- 3) その他
 - ・新規特集号の企画提案:「近年の石灰藻に関する古生物学的・堆積学的研究の進展(仮):英文タイトル確認中」(代表世話人:井龍康文(東北大))の企画提案があり、採択した。
 - ・誌面レイアウトの刷新:最近のオンライン出版の主流化に伴いまた迅速かつ効率のよい出版のため、ワイリーより誌面レイアウトの刷新が提案された。4月より新しい組版が開始され、Vol.25 Issue 4(2016年7月号)掲載分から誌面へ反映される予定。
 - ・契約内容の変更:隔月刊に伴う契約内容の変更について、ワイリーより変更書面(案)が送付され、内容を確認した。
 - ・2016年度Island Arc賞:選考が終了し(委員長Graciano P. YUMUL, Jr.), 各賞選考委員長に結果を報告した。
- (3) 企画出版委員会(保柳)
 - ・共立出版より、フィールドジオロジーの電子書籍化についての要請があった。
 - ・長瀧たんけんマップは今月中に刊行できる予定。
 - ・大島三原山の原稿は差し戻しとした。
 - ・「海洋底調査の基本」(編集安間)の出版について、共立出版の横田氏よりの報告:現在の予定では5月の連合までに刊行を目指して編集作業中。
- 6) 社会貢献部会(平田・杉田・廣木)
 - 1) 5月14日(土)に国会議事堂の石の見学会を実施。募集開始は4月を予定。
 - ・午前・午後の2回行うこととし、1回あたり25名を募集する。今回に限り、会員も募集対象とし、会員は募集人数を超えた場合は抽選とする。
 - ・講師は乾(国土館大)と中澤(産総研)を予定。
 - ・広報は学会のMLの他、博物館・図書館等でのポスター掲示とイベントバンクへの登録を予定。なお、広報にあたっては国会側に確認を行ってから実施する予定。
 - 2) 地質調査の研修について講師の徳橋氏より意見書が出された。
- 7) ジオパーク支援委員会(平田)
 - ・日本ジオパークネットワーク(JGN)事務局より、次期日本ジオパーク委員会(JGC)の委員推薦の依頼があり、ジオパーク支援委員会として平田大二会員を推薦する(任期2年)。
- 8) 地学オリンピック支援委員会(平田)

- ・本委員会の委員に対し、8月の国際地学オリンピック日本大会の運営委員への協力依頼有り
 - ・3月13日~15日に茨城県つくば市で第8回日本地学オリンピック本選を開催予定(予選を通過した中3~高2の約60名が参加予定)
- 9) 地質技術者教育委員会(山本)
 - 公共事業のCPD要請が強まる。例年通り全地連への会費納付。地方でのCPD講習会の必要性。
 - 10) 125周年記念事業実行委員会(渡部)
 - ・雑誌企画:順調に企画提案が
 - ・フォトコンの写真集:出版社と協議中。
 - ・会員証:検討中。
 - ・式典:記念講演の講演者検討中。
 - ・ロゴ:5月ごろから公募を計画中。
 - 11) そのほか
 - 1) 西日本支部と山口大学理学部が共催でCPD講習会を実施する。なお、収支に余剰が出た場合には西日本支部と大学とで折半することを確認した。
 - 2) 地質地盤情報の法整備の推進について、これまで3年間にわたり全地連を中心に行ってきたが今年度で終了し、組織替えをすることとなった。今後、学術的な面からの法整備について地質学会や産総研として検討が必要。4月の理事会で審議する方向で準備、担当を中澤理事とした。
 - 3) Geology of Japan (GSL) 4月刊行決定。来月のニュース誌に記事掲載。交流学会として地質学会会員には割引価格で販売予定。
- 以上

2016年3月26日
一般社団法人日本地質学会執行理事会
会長(代表理事)井龍康文
署名人 執行理事 斎藤 眞

2015年度 第9回執行理事会議事録

期日:2016年3月26日(土)13:00~17:30
場所:地質学会事務局
出席者:井龍会長 山本副会長 渡部副会長
斎藤常務理事 ウォリス 海野 緒方
杉田 竹内 中澤 平田 星 保柳 山路(事務局) 橋辺
欠席者(委任状提出あり):坂口 廣木 松田
*定足数(12, 委任状含む)に対し、出席者14名、委任状3名、合計17名の出席。
*前回議事録の承認

I 審議事項

1. 「県の石」公表手順および出版について(斎藤)

- ・広報担当理事は大至急、下記情報を記載するためのフォーマットを作成する。
- ・支部に各県の石の基礎情報の提供を依頼する。支部は各県の岩石、鉱物、化石の写真(クレジットに注意)とその説明文(1項目200字以内)、展示場所の情報、各都道府県の石に関する問い合わせ先(担当者)を4/28までに本部に連絡する。展示場所は予め確認・連絡して承諾を得る。
- ・広報が情報を取りまとめてプレス資料を作成する。広報資料は学会事務局から文科省記者クラブ及び県政記者クラブ、都道府県にも送付する。
- ・出版は、理事会のもとにプロジェクトを立ち上げて作業を始める。

2. 地質学雑誌の将来の出版形態について(山路)

- ・2019年までは月刊で発行できる見込み。

2019年に完全電子化する計画案を作成するために、財政を含めた総合的なシミュレーションを早急に行う。様々な立場、階層の会員からも意見を収集する必要あり。会長がプロジェクトチームを編成し、メンバーを4月理事会で報告する。

3. 2016年度事業計画最終案(井龍)

語句を一部修正し、確定案とした。

4. 2016年度予算案について(緒方)

2015年度の予算・決算予想に照らして、また、会員減少傾向も考慮して2016年度の予算案を策定したことが説明され、了承した。

5. 地質研修の会計計画案について(緒方)

2016年度秋季研修の会計計画案を承認した。それ以降については改めて検討し、提案することとした。

6. The Geology of Japanの販売に関して(ウォリス)

数がまとまれば送料程度を割り引で提供できることから、このことを会員にgeo-Flash等で案内し、期間限定で注文を取る(5月末まで)。また、連合でも注文を取り、学会としてまとめてGSLに注文する。会員への販売予定価格は37.5GBP+手数料。

7. 理事会議案について

- ・2016年度各賞の決定
- ・2016年度名誉会員の推薦について
- ・編集規則改正について一法務委員会の答申を受けて
- ・2016年度予算案について
- ・2016年度事業計画案について
- ・総会議案
- ・その他

II 報告事項

1. 全体的報告

1) フィールドジオロジー(共立出版)の電子書籍化及びそれに伴う著作権料(印税)を学会に寄付する件については、著者全員の了承を得たので共立出版に承諾の返事を

した。

2) 理事選挙(中部支部のみ)は3月8日に終了した。全国区は定員未満(39名)及び地方区(7名)合わせて46名(定数50名)の理事が選出され、総会に報告され承認の手續きとなる。

3) 東京桜上水大会の委託業者はメールで審議のうえ、アカデミックプレインズに決定。下見の後に再度見積もりの提出を要請した。

4) 大学入試センター長あてに「平成28年度大学入試センター試験の地学関連科目に関する申し入れ」を3/15付けで行った。

5) 地質研修について徳橋会員と関係理事の話し合いを持った。その後徳橋会員から、こちらから提案の条件を受け入れ、秋の研修会を準備するとの返答があった。

6) 各賞選考委員会より、現時点で推薦が決まった候補者の報告

7) 125周年記念特集号についての報告(宮下委員より)

2. 運営財政部会:総務委員会(緒方)

<共催・後援依頼,他団体の募集等>

1) 科学教育研究協議会より第63回全国研究大会(8/6-8,静岡大)の後援依頼を例年通り承諾した。

2) 第14回「岩の力学国内シンポジウム(2017/1/10-12,神戸大学)の実行委員会(委員長芥川真一)より協賛依頼があり承諾した。

3) ジオ神奈川(代表:蟹江康光)より、観察会「城ヶ島の関東大震災」の後援依頼を承諾。

4) 筑波大学より、第11回「科学の芽賞」の後援依頼を承諾。

5) 地球化学会より2016年度「三宅賞」および「進歩賞」の公募案内:1976/4/2以降生まれ、8/31メ切→HP, News誌, geo-flashに掲載

6) 日本学術振興会「育志賞」の公募案内:4/1現在34歳未満,16名程度選考,提出期間6/8-6/10,学会メ切5/16→HP, News誌, geo-flash

7) 国土地理協会より学術研究助成の公募:地理学および関連分野ならびに地図・地名に関する学術的調査研究とこれらに関連した3.11地震復興に関する調査研究,募集期間4/1-4/22,1件当たり100万円まで→HP, News誌, geo-flash

8) (独)石油天然ガス・金属鉱物資源機構,理事長の交代挨拶状(新理事長:黒木啓介氏)

<会員>

1) 今月の入会者(4名…院割:3,学部割:1)

・2015年度からの入会希望

正(学部割)会員[1名]:澤山和貴

・2016年度からの入会希望

正(院割)会員[3名]:太田光,浦川良太,秋田幸徳

2) 今月の退会者(2名)

2015年度末退会予定者一覧→回覧

3) 今月の逝去者(1名)

松葉千年(2015/12/1)

4) 2016年2月末日会員数

賛助:28, 名誉:58, 正会員:3790, 正会員:3578 正(院割)会員:193

正(学部割)会員:19 合計3876(昨年比-37)

<会計>

1) 2016年度予算案について

・年会の会場費:日大LOCの尽力で1棟分の施設使用料105万円は無料となり,経費はその他の諸費用のみとなった。

・年会のアルバイト賃金:東京という土地柄を考慮し,時間給を950円とする。

・中退共の掛け金増額:職員2名の退職金積み立金額は将来を見越して16,000円から24,000円に増額。

3. 広報部会:広報委員会(坂口・松田)

・3/1フォトコンの審査会開催し,応募総数273点より,最優秀賞1,優秀賞2,ジオパーク賞1,ジオ鉄賞1,スマホ賞1,入選7,佳作20を選出した。

4. 学術研究部会(ウォリス・竹内・中澤)

(1) 行事委員会(竹内)

・東京桜上水大会報告

公開シンポジウムと国際シンポジウムを開催。

トピックセッション9件を採択。

堆積関係のレギュラーセッションは例年通り他学協会と共催。

・2017年大会(愛媛大学)は9/16-18開催(巡検は19日以降)。LOCメンバーが決定。

(2) 国際交流委員会(ウォリス)

・ロンドン地質学会より「The Geology of Japan」が刊行された。日本国内での販売に対する協力について,本執行理事会で検討する

(3) JIS, 標準担当(中澤)

・つぎのJISの委員会については,地質学会の会長経験者に委員長を依頼する予定である。

5. 編集出版部会(山路・海野・保柳)

(1) 地質学雑誌編集委員会(山路編集委員長)

1) 編集状況報告(3月25日現在)

・2016年投稿論文 総数28編[論説11(和文11),報告2(和文2),講座5(和文5),口絵1(和文1),巡検案内書9](昨年比+5)

・査読中:41 受理済み:7

・122巻3月号:論説2,報告1,口絵1(計42ページ,3/23校了。3/31発送予定)

(2) アイランドアーク編集委員会(海野)

1) 編集状況

Vol.25 Issue 2(2016年3月):一般原稿5編(計82ページ)で校正中。3月4日公開予定であったが,校正作業が遅れている。遅延の理由については前回執行理事会で報告済み。

- 2) オンライン投稿の状況
過去半年(2015.9.1~2016.3.25)の投稿数43件。うち新規投稿39件。
- 3) その他
・隔月刊化に伴う契約内容の変更のため、新しい契約をWiley社と取り交わした(3/16付会長サイン)
- (3) 企画出版委員会(保柳)
・長瀨たんけんマップが刊行された。
・地方地質誌四国地方(朝倉書店)が発行された(2/25刊行)。
・「海洋底調査の基本」の編集については、用語等について確認が生じている。
6. 社会貢献部会(平田・杉田・廣木)
- 1) 地質の日記念「街中ジオ散歩 in Tokyo:国会議事堂の石」
平成28年5月14日(土)に2回開催。会員・非会員各25名(定員超過の場合は抽選)。

- 募集期間は4/4-15。
- 2) 地質調査研修について
春は中止。11月は実施予定。講師謝金については改定予定。
- 3) 松浦委員より下記の議事録・資料が配布された。
・法整備検討会(2/25)(臨時)
・「地質地盤情報の活用と法整備を考える会(仮称)」準備会(3/11)議事録
7. ジオパーク支援委員会(平田)
・地震火山子どもサマースクールについて
2015年大会の収支決算に余剰金が出たので、拠出金に応じて返金されることとなり、地質学会には50,274が返金された。2016年度は南紀白浜で開催予定。以後の開催地については検討中。
8. 地学オリンピック支援委員会(平田)
・久田理事より、国際地学オリンピック日本大会に対し文部科学省から2500万円の補助

金が確定し、協賛金等を合わせて6000万円の資金の確保ができたとの報告があった。詳細は理事会にて報告予定とのこと。三重大会の準備状況が報告された。

9. 地質災害委員会(斎藤)
・防災学術連携体主催、学術会議共催により8月末に開催される第1回防災推進国民大会に「都市の地下を知って安全な社会を！」(仮題)セミナーを申し込んだが、採択は未定。
10. 地質技術者教育委員会(山本)
フィールドマスターについての検討が始まったことが紹介された。

以上

2016年4月2日
一般社団法人日本地質学会執行理事会
会長(代表理事) 井龍康文
署名人 執行理事 斎藤 眞